

# 平成30年度 学校運営連絡協議会実施報告書

## 1 組織

- (1) 都立八王子特別支援学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 主幹(教務主任兼務)=事務局長、副校長1名 計2名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長2名、経営企画課長、主幹6名 計10名
- (4) 協議委員の構成  
学識経験者、市内高等学校長、福祉施設長、職業安定所職業指導官、知的障害児通園施設長、市健康福祉部障害者福祉課長、近隣町会長、PTA会長、企業関係者、子ども家庭支援センター職員 計12名

## 2 平成30年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 平成30年6月26日（火）内部委員 7名、協議委員11名  
委員委嘱、委員紹介、学校運営連絡協議会の趣旨説明、授業見学、昨年度の学校評価報告、学校経営計画等の説明、協議
  - 第2回 平成30年10月9日（火）内部委員8名 協議委員11名  
授業見学、学校評価アンケートの検討、協議
  - 第3回 平成31年2月22日（金）内部委員7名 協議委員7名  
学校評価に基づく今年度の学校改善に関する取組についての協議
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 平成30年6月26日（火） 内部委員2名、評価委員4名  
昨年度の学校評価の確認、今年度のアンケートの検討、学校運営連絡協議会の年間計画、アンケート実施手順の確認
  - 第2回 平成30年10月9日（火） 内部委員2名 評価委員4名  
事務局が提案したアンケート案の検討、今後の予定の確認
  - 第3回 平成31年2月22日（金） 内部委員2名 評価委員4名  
評価結果に基づく具体的な学校改善計画の検討、次年度に向けた方向性の確認

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点  
学校が校長の学校経営計画に基づき、組織として良好に存続していくための、自主的な検証・改善を図るために、保護者、学校近隣の地域住民、卒業生等からの外部評価を積極的に受け止める。外部評価をとおして、学校の組織的な活動を中心に現状と課題について明らかにし、継続的な学校経営改善を実現するとともに、次年度の学校経営計画の策定に生かす。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模  
11月 保護者（396人 施設児童・生徒を除く）、地域（60人）、在校生徒（216人）、教職員156名
- (3) 主な評価項目  
授業の進め方、個別指導計画、人権への配慮、説明・連絡、生活指導、進路指導、健康・安全指導、授業参観、防災対策、教員の専門性、電話・窓口の対応、ライフ・ワーク・バランスの推進について
- (4) 評価結果の概要及び本校での課題
  - ①回収率及びアンケートについて※全校児童・生徒数は433名だが、施設生を除いた実数396名として計算

	保護者 344/396※ 87%			教職員	地域	在校生徒 210/216 97%	
	小	中	高		台町三丁目 上野町三丁目	中学部	高等部
人数	147/147	65/71	132/179	156/156	27/60	31/31	179/185
回収率	100%	92%	74%	100%	45%	100%	97%

- 保護者からの回収率の推移（29年度84%、28年度86% 27年度81% 26年度85%、25年度90%、24年度94%、23年度91%、22年度91%、21年度80%）

### ②結果の概要

#### 1) 保護者について

- ◇ 保護者の肯定的評価が低かった項目については以下の通りである。
  - 【質問項目13】お子様に応じた将来の進路に関する情報提供について
  - 【質問項目14】系統性のあるキャリア教育や学部間の接続について
  - 【質問項目16】副籍交流活動や共同学習について
- ◇ 上記以外の質問項目については、80%以上の肯定的評価をいただいた。

#### 2) 地域住民について

- ◇ 判断できないと回答している方が多かった質問項目については、肯定的評価が低いが、それ以外の質問項目については、肯定的評価がおおむね80%であった。

#### 3) 在校生について

- ◇ ほぼすべての質問項目について、肯定的評価が80%以上であった。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

- 学校評価については、評価すべきことを焦点化してすることも大事である。PDCA サイクルに基づいて、学校改善に生かせるような評価を行うことが大事であることが分かった。

5 学校運営連絡協議会の成果と課題及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- 高等部保護者の回収率が低い。他の配布・回収物が同じように回収率が概ね低いというわけではないことから、教員の意識の問題も一因にある。今年度は当初回収率が低かった高等部には提出の催促のお知らせを配布したが、教員への呼びかけや意識の向上も図っていく。
- 高等部が保護者・教員とも、他の学部と比べると、全体的に肯定的評価が低い数値になっている。引き続き、研究活動や研修会等を通して、専門性を高めていく。【保護者アンケートの教育計画についての質問項目1～7より】
- 人権に配慮した指導については、保護者の肯定的評価が100%になるように、引き続き研修を行っていく。【保護者アンケート質問項目7より】
- 個人情報の取扱いについては、紛失や誤配布等がないよう、色付き封筒を使うなどのルールを決めている。また、毎月服務事故に関する研修を行っている。数件あった誤配布の原因は、ルールを守らなかったことが原因にある。引き続き、教員の意識向上のため、定期的に校内のルールを周知や研修を通して、事故ゼロを目指す。保護者の方から過剰であるとの意見もいただいている。保護者会等で主旨の説明等を行う。【保護者アンケート質問項目8より】
- 防災に関する地域等との連携について、教員の評価が低い。宿泊防災訓練では、台町三丁目町会長やPTAの方に御協力御いただいた。これらの認識が低いことが原因として考えられる。今後の課題として本校の防災計画について、教職員に丁寧に説明する機会を設ける。【保護者アンケート質問項目10より】
- 進路に関する情報提供について、保護者は学部が進行するにつれて、肯定的評価が高くなっているものの、否定的な評価はどの学部も1割ほどある。進路保護者研修会や各学部の保護者会で、各学部で必要な進路の情報を進路指導部から説明も行っているため、参加を呼び掛ける。【保護者アンケート質問項目13より】
- 系統性のあるキャリア教育や学部間の連携について、現在、「444プロジェクト」と称して、12年間で3つのステップに分けて、それぞれのステップで身に付ける力を整理して、次年度からの試行に向けて、全校で共有しているところである。次年度の全校保護者会等で説明を行う。【保護者アンケート質問項目14より】
- 挨拶や言葉使いに関しては、保護者の自由意見から、他学部の教員についての評価をしていることもあり、純粋に保護者が当該学部の教員を評価しているとも言いきれない。高等部の教員の自己評価が低いことは課題であるため、意識を高くもって指導に当たるよう、意識改革を行っていく。【保護者アンケート質問項目15より】
- 電話対応について、否定的な評価の理由は、対応そのものについての評価と電話が繋がらない、の2つである。必ずしも、学部の保護者が学部の教員を評価しているとはいえず、経営企画室の対応についても意見もいただいている。引き続き、接遇の向上に努める。【保護者アンケート質問項目18より】

5 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 12人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	1					6

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

・なし

7 その他

・なし